

2010年8月23日

東急車輛製造株式会社

東急車輛産業遺産第3号として
0系新幹線電車前頭部を保存します

東急車輛製造株式会社(本社:横浜市金沢区、社長:金田 一郎)は、今年8月に創立62周年を迎えることを記念して、日本の高度成長期を支えた高速車両である0系新幹線電車の先頭部を東急車輛産業遺産第3号として指定し、当社の横浜製作所内に保存することとしました。



0系新幹線電車前頭部

0系新幹線電車は1964年(昭和39年)10月東海道新幹線開業時から使用された国内最初の高速鉄道専用車両です。東京-新大阪間の「ひかり」「こだま」号に使用され、最高運転速度は210km/hで、営業列車では当時の世界最速を誇りました。開業当初は12両編成でしたが、需要増加に伴い16両編成に増強され、名実共に日本の鉄道輸送の大動脈を担った車両です。1964年から1987年(昭和62年)まで38次に亘って合計3216両が新製され、当社は1967年(昭和42年)6次車から製作に参入、492両を製作し国鉄に納入しました。

今回保存する車両は36次車の博多方先頭車であり、1985年(昭和60年)1月に製作されました。JR東海に継承後1998年(平成10年)6月まで東海道・山陽新幹線で「こだま」号を中心に使用され、廃車後は静岡県佐久間レールパークでシンボリックな前頭部が保存されていました。2009年11月同所の閉園に伴い2010年7月にこれを譲り受け、日本の高度成長期を支えた高速鉄道専用車両としての活躍を永く伝えていくため、東急車輛産業遺産3号として指定し、誕生したこの地に永久保存することとしました。(※一般公開はしていません) ~次ページに参考資料~



美しい時代へ—豊かさを造り、未来を創る

東急車輛製造株式会社

○●参考資料●○

①東急車輛産業遺産制度について

市場を開拓し、当社の事業基盤を築いた製品を東急車輛産業遺産に指定のうえ、その製品に係る事業所に永久保存する制度。エポックメークとなった製品を保存することによって当社のこれまでの業績を「見える化」し、それにより、商品力・ブランド力の向上、技術伝承資料としての活用、社員のモチベーション向上などの効果を期待している。

東急車輛産業遺産に指定する条件は、以下のとおり。

- (1) 【製品現存】市場に初めて投入した製品が現存していること。
- (2) 【市場開拓】市場において、世界初・日本初の製品・技術として評価されていること。
- (3) 【事業基盤構築】その製品の開拓した市場や技術が、当社の事業基盤となっていること。

②0系新幹線 補足説明

車体は鋼製で、在来線の規格よりも車体を大きく取り、客室内には腰掛を5列に配列したことで1両当りの定員が増加している。モデルチェンジをしながら製作が継続された0系のうち22次車の1000番台で側窓が小窓化され、30次車以降の2000番台はシートピッチが改善された。1987年の国鉄民営分割化後はJ R 東海・J R 西日本に継承され、2009年まで使用された。

